

熊本の観光・レジャーに関するアンケート(2026年6月調査)

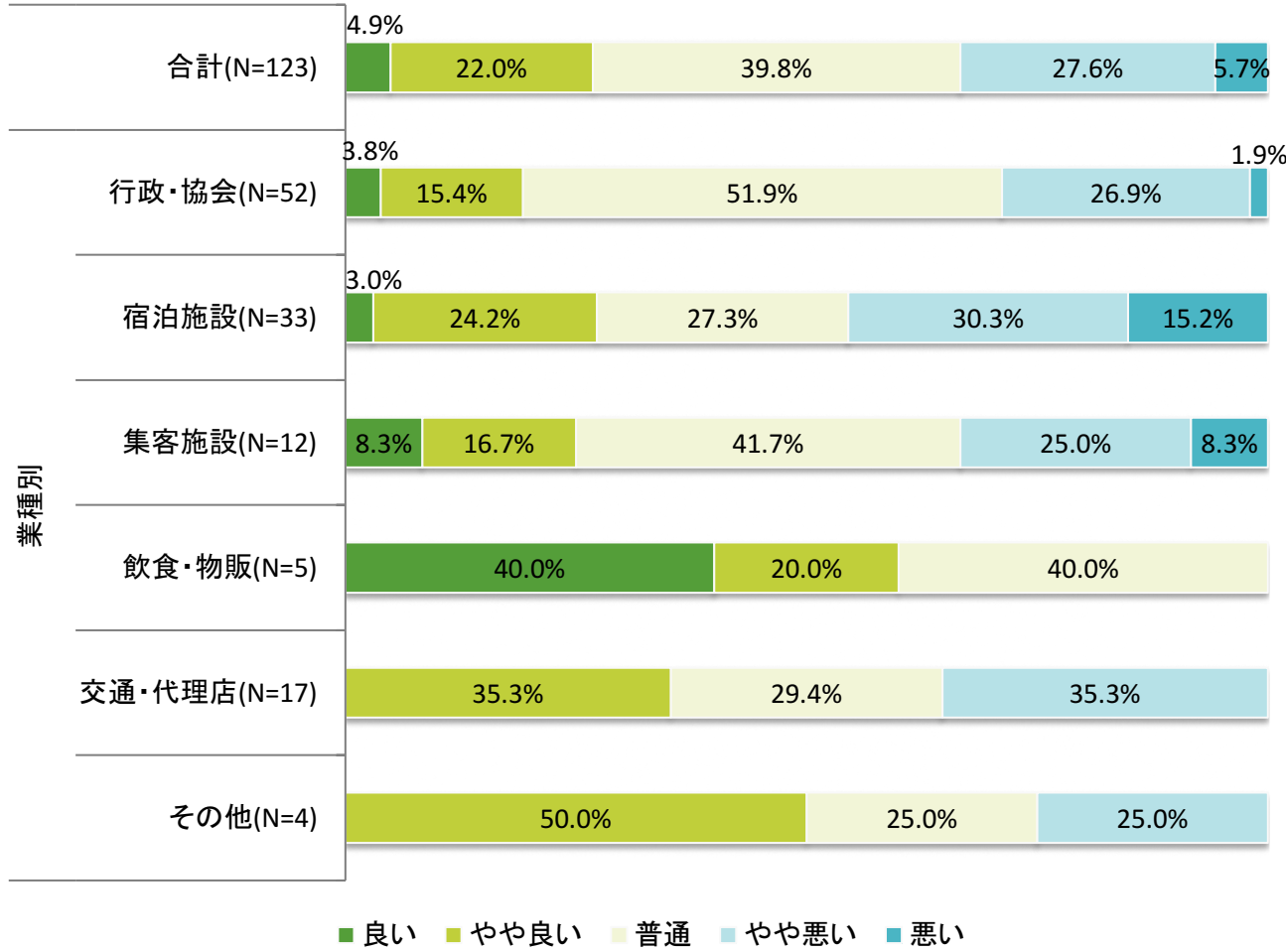
「熊本の観光・レジャーに関するアンケート(2026年6月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:284、回収数:123、回収率:43.3%、回収期間:2026年6月19日～2026年6月30日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (4月～6月)	見通しDI (7月～9月)
合計(N=123)	48.2	55.1
行政・協会(N=52)	48.1	57.7
宿泊施設(N=33)	42.4	50.0
集客施設(N=12)	47.9	47.9
飲食・物販(N=5)	75.0	70.0
交通・代理店(N=17)	50.0	55.9
その他(N=4)	56.3	62.5

4～6月の熊本の現状判断DIは48.2となり、前期(46.0)から2.2pt上昇した。業種別にみると、行政・協会、宿泊施設、集客施設の3業種が景況判断の節目である50を下回り、飲食・物販、交通・代理店、その他の3業種が50を上回っていた。天候不順による観光客の減少、日本人観光客の伸び悩みを指摘するコメントがある一方、韓国・台湾をはじめとしたインバウンド客の増加により景況感が改善したとのコメントもあり、現状判断DIは上昇する結果となった。見通しDIは55.1となり、前回(54.0)から1.1pt上昇した。集客施設以外の5業種でDIは50以上であった。見通しが良くなると判断する要因として、熊本デスティネーションキャンペーンによる県内への集客効果や観光需要の喚起への期待といったコメントがみられた。一方、悪くなる要因として、燃油価格の先行きや中東情勢など外部環境の不透明感、物価高による消費抑制への懸念といったコメントがみられた。

2. 4～6月期の動向、景況感

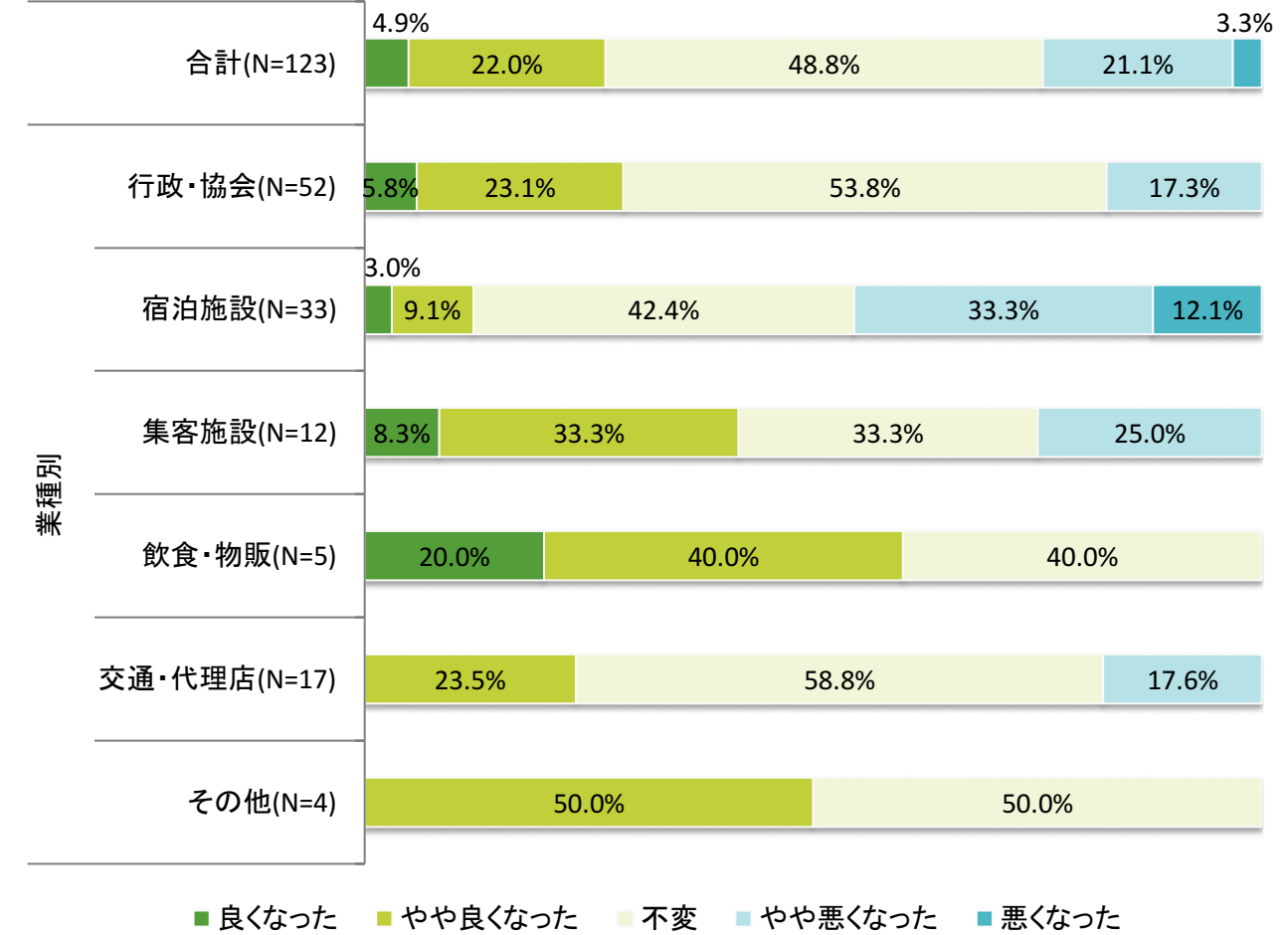


4～6月の景況感は、全体では「良い」と「やや良い」の合計が26.9%、「悪い」と「やや悪い」の合計は33.3%となった。業種別にみると、飲食・物販で「良い」と「やや良い」の割合が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

●良い
インバウンド(台湾・韓国)団体の集客増加。(飲食・物販)
●やや良い
4～5月の旅客数が前年同月と比較し増加しているため。(交通・代理店)
海外観光客をとりこめている。(宿泊施設)
●普通
平常時はやや減だが、GW期間中の入込が増加した為、平均すると普通。(集客施設)
●やや悪い・悪い
6月は天候の影響で入りも悪く、キャンセルも相次いでいる。特に台風。(宿泊施設)
物価高の影響もあり節約志向に感じる。(行政・協会)
国内顧客が大きく減少傾向。(宿泊施設)

3. 1～3月期に比べた4～6月の動向、景況感

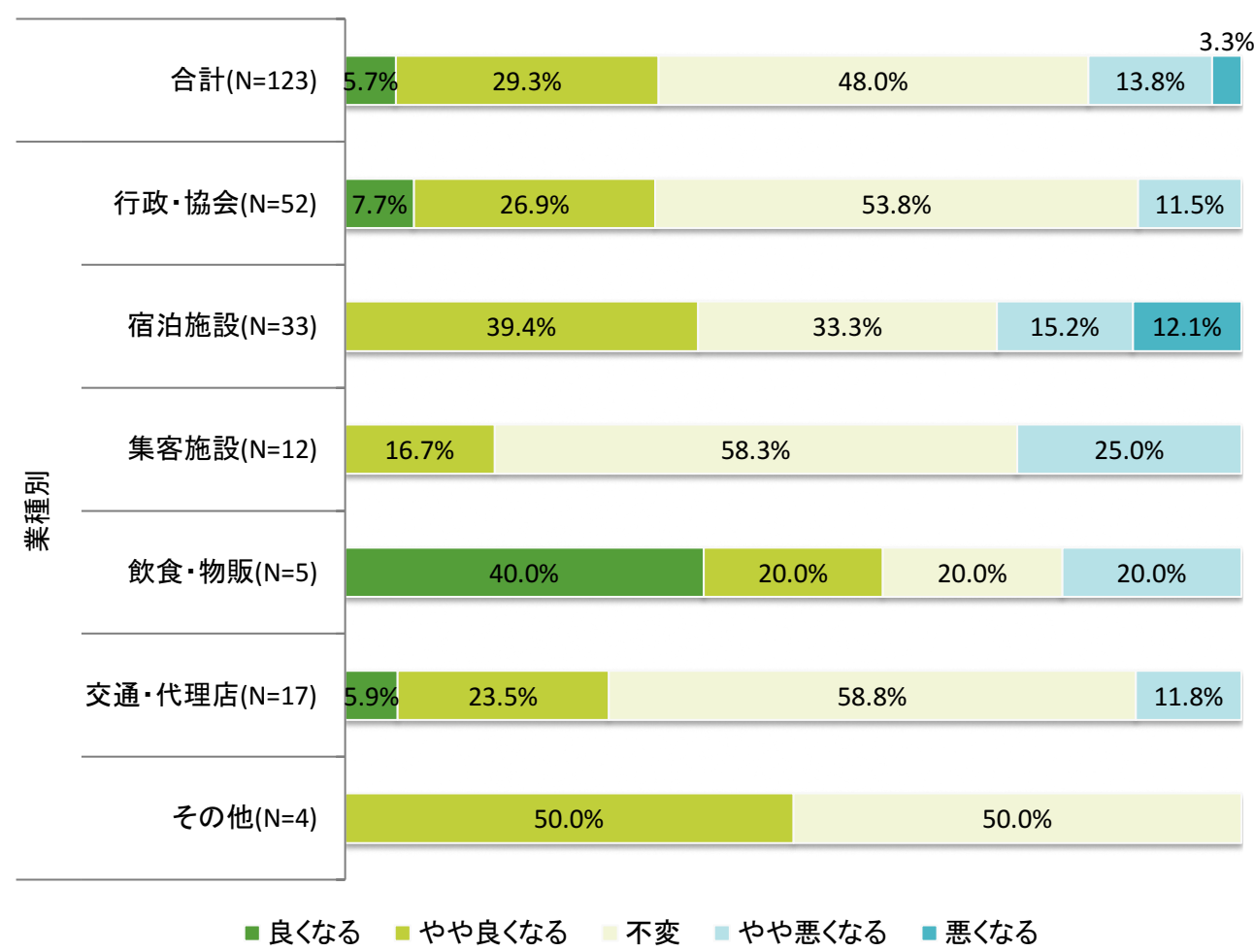


1～3月期に比べた4～6月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が26.9%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で24.4%となり、前者の比率が高い結果となった。

【コメントの抜粋】

●良くなった
売上が上がっている。(飲食・物販)
●やや良くなった
インバウンド等も含め人流が多くなっている。(行政・協会)
日中関係の悪化による減少を国内客が補っている。(その他)
インバウンドの増加。(集客施設)
●不変
昨年実績と変わらない。(交通・代理店)
●やや悪くなった・悪くなった
国内客が中心のホテルの為、国内客の減少のあおりを受けていると考えられる。(宿泊施設)
世界情勢の不安や物価高も影響。(集客施設)

4. 今後、9月までの業況の見通し



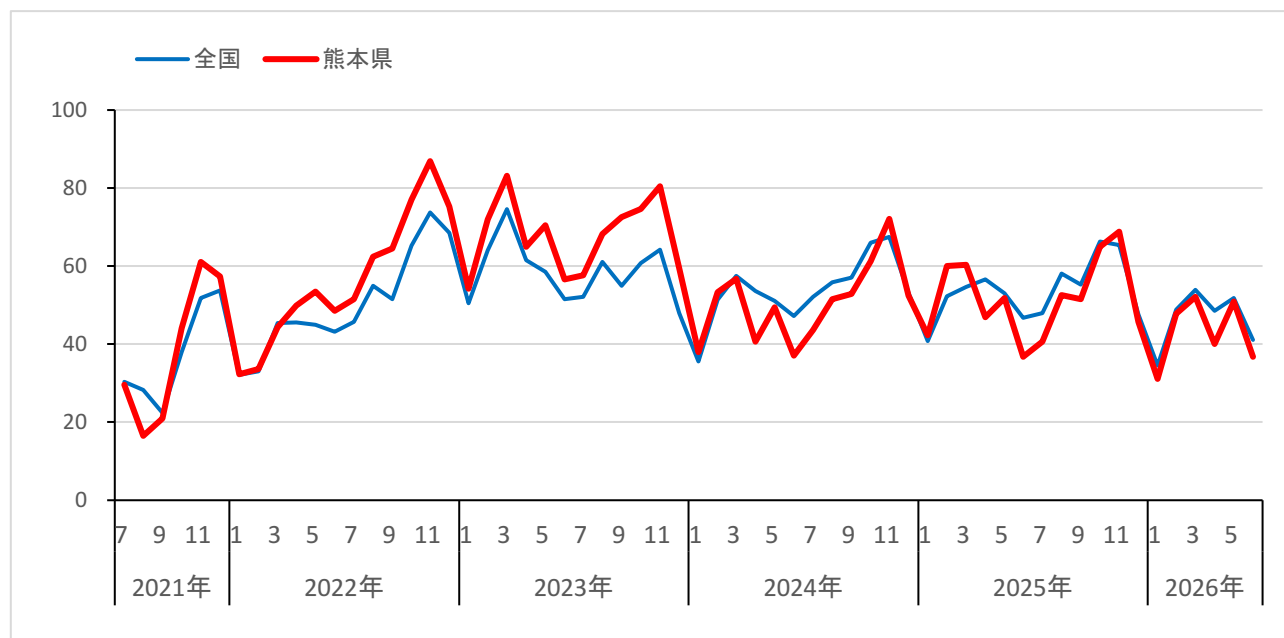
今後9月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は35.0%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は17.1%となった。
業種別にみると、飲食・物販、その他で「良くなる」と「やや良くなる」の合計が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
JRと行政、及び旅行会社等でDCキャンペーンがこの夏、熊本において開催されるため。(行政・協会)
- やや良くなる
くまもとDCによる熊本への集客、そして夏休み需要から来るレジャー層の一定数の獲得が見込まれるため。(宿泊施設)
- 不変
熊本DCの効果に期待。(交通・代理店)
- 客単価が上がってこない。(飲食・物販)
- ホルムズ海峡の影響が軽微になりつつあるが、燃油がおちつくのはまだ先のため。(交通・代理店)
- やや悪くなる・悪くなる
景気回復並びに情勢安定の見通しが立ってない為。(集客施設)
- 中東情勢など不透明な面もあり、物価高などの影響でレジャーに費やすお金が減少することも見込まれるため。(宿泊施設)

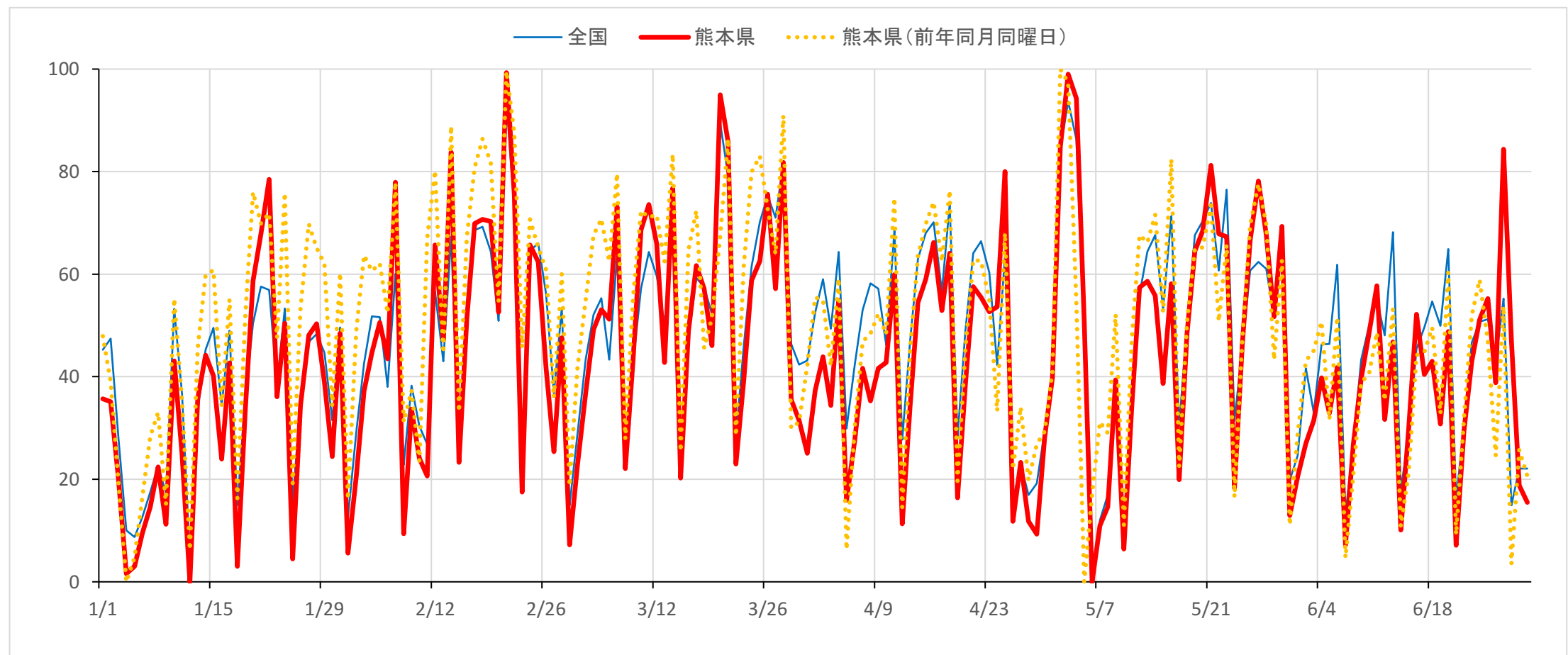
5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別(2021年7月～2026年6月)



2026年4月における熊本県の宿泊稼働指数は40.0(前年同月差▲6.9pt)、5月は51.0(同▲0.9pt)、6月は36.8(同0.0pt)となった。
2025年11月以降、7か月連続で前年同月の指数を下回っており、低調な状況が続いている。全国同月指数との比較においても、2025年12月以降、7か月連続で全国を下回っている。特に4月は全国との差が大きく、熊本県の宿泊稼働は全国と比べて弱い動きとなった。
地域別にみると、菊池市、宇土市では、4～6月の宿泊稼働指数が県全体の水準を下回る状況が続いた。一方、阿蘇市、南小国町などの阿蘇地域や、玉名市などの荒尾・玉名地域では4～6月の宿泊稼働指数がいずれも60を上回るなど、高い水準となった。

②日次別(2026年1月1日～2026年6月30日)



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)でみると、2026年4月1日から同年6月30日の91日間のうち64日で宿泊稼働指数が前年同日差マイナスとなり、前年と比較して低い水準で推移している。特に4月は、平日・土日祝日ともに前年同日差マイナスの日が続いた。一方、5月は上旬のゴールデンウィーク期間(5月2日～6日)や下旬の土日を中心に前年を上回る日がみられ、6月も平日を中心に前年を上回る日が一部みられたものの、依然として前年を下回る日が多かった。全国と比較すると、5月は土日祝日を中心に全国との差がやや縮小し、熊本県が全国を上回る日もみられた一方、4月、6月は平日・土日祝日ともに全国を下回る水準で推移した。
ゴールデンウィークについて、5/3、5/4にそれぞれ99.0、94.3を記録するなど後半は高い値を示したが、前半は昭和の日(4/29)が水曜日となり、平日を2日挟む日程であったことから、前年同日差マイナスで推移した。地域別にゴールデンウィーク期間中の指数をみると、阿蘇地域で高い水準となった。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)
同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数
宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は 0 から 100 の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100 に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020 年 4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。
具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\left(\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left(\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。